

Course number		U-LAS02 20016 LJ37			
Course title (and course title in English)	ギリシア語 A Greek A		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer,HORIKAWA HIROSHI	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	Arts, Literature and Linguistics(Issues)	
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2024・First semester
Days and periods	Fri.3		Target year	All students	Eligible students For all majors
[Overview and purpose of the course]					
<p>本授業は、古典ギリシア語（紀元前5-4世紀のアッティカ方言）の入門的な授業である。アルファベットの学習からはじめて、名詞や動詞の語形変化を中心とする文法を、毎回少しずつ学んでゆく。その際、始めから文法の細則に目を向けるのではなく、重要項目が織り成す大きな枠組みを捉えることを重視し、ギリシア語という言語を動かす仕組みを学んでゆく。</p> <p>授業では主に基本文法の解説を行ない、その文法を記憶するためのなるべくギリシア的な例文に触れてゆく。必要に応じて自習用の課題や確認テストを実施するが、いずれも平易なものなので、興味がある学生は臆せず履修していただきたい。また希望者には、成績評価とは別に追加の課題を出すことも可能である。ここまでやればギリシア語の原典を読んでゆく力を身につけることができるだろう。</p> <p>古典ギリシア語は、プラトンやアリストテレス、また「三大悲劇詩人」などの言語として、ヨーロッパ文学史上に燦然と輝く言語である。この言語を学習することは古代ギリシア世界への扉を開き、その時代を生きた人々との対話を可能にする。ぜひ多くの学生に、この対話への参加を試みていただきたい。</p>					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none">・ギリシア語で書かれた文を適切に発音できるようになること。・平易なギリシア語で書かれた文を正しく解釈できるようになること。・より発展的なギリシア語学習の基礎となる中核的な語彙と文法知識を獲得すること。					
[Course schedule and contents]]					
以下のスケジュールに従って授業を進める。					
第1回 文字と発音					
第2回 第二変化名詞（性・数・格etc.）					
第3回 動詞の現在形（数と人称）					
第4回 第一変化名詞（規則性とヴァリエーション）					
第5回 形容詞の基本（性・数・格の一致etc.）					
第6回 中動態と受動態，人称代名詞					
第7回 第三変化名詞					
第8回 母音融合タイプの動詞					
第9回 母音融合の名詞・形容詞					
第10回 未来時制					
第11回 未完了過去とアオリスト					

Continue to ギリシア語 A (2)					

ギリシア語 A (2)

- 第12回 第二アオリスト
- 第13回 母音融合動詞の未完了過去etc.
- 第14回 未来とアオリストの受動態
- 第15回 期末試験
- 第16回 フィードバック（詳細は授業中に連絡します）

[Course requirements]

後期（ギリシア語B）も継続して履修することが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

授業中に実施する「確認テスト」の得点（30％）と、「提出課題」の得点（30％）、および「期末試験」の得点（40％）の合算による。授業で説明した文法事項が身についているかどうかを、いずれも筆記試験の形式で確認する。

[Textbooks]

解説に必要なプリントなどは毎回の授業で配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

予習は必要ないが、知識の定着（その度合いを随時「確認テスト」でチェックする）のためには相応の復習が必要である。具体的には授業で解説した文法事項を記憶して、それを定着させるための練習問題にあたることになる（問題は授業で配布する）。学生の能力にもよるが、毎回1から2時間ほどの時間を割く必要があるだろう。

[Other information (office hours, etc.)]